



# (公社) 日本水環境学会

会長 小野芳朗 (京都工繊大 副学長)

## 【学会沿革】

- 1971年 日本水質汚濁研究会設立
- 1981年 社団法人化
- 1986年 環境庁水質保全局より  
水質保全功劳賞 受賞
- 1991年 社団法人日本水環境学会  
に改称
- 2012年 公益社団法人化

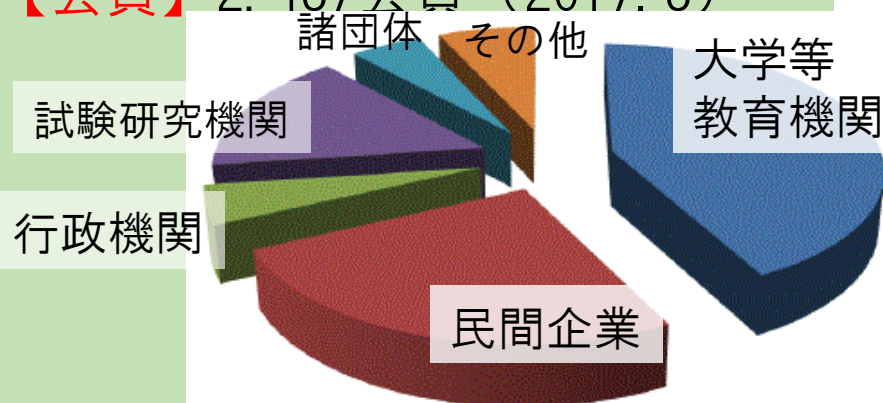
## 【活動目的】

水環境に関連する分野の学術的調査や研究、知識の普及、健全な水環境の保全と創造への寄与、学術・文化の発展への貢献

## 【活動内容】

- ・ 学術雑誌の発刊 (和文/英文)
- ・ 年会、シンポジウム開催
- ・ 各種表彰活動
- ・ 国際会議開催
- ・ 市民セミナー開催 など

## 【会員】 2,437会員 (2017. 3)



# 意見の概要

- ① 方向性への賛同
- ② 記載事項への修正意見
  - 1. 現状認識
  - 2. パートナーシップ
  - 3. 重点戦略

参考：本学会および国際水学会の活動の紹介

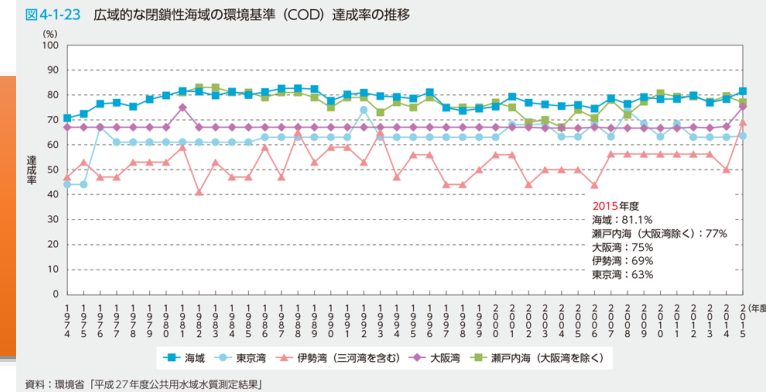
# ①方向性への賛同

- SDGsなど国際的に共有される大きな目標との関連性が示されている点は、国際学会と連携した活動を行っている当学会として強く賛同するところである。
- 従来の縦割りの記述から横断的な記述に変わり、基本計画の理念がより明確となっている点は評価できる。
- 今後、省内の各部署が現実の計画にどのように落とし込むのが重要であり、多くの継続すべき従来の施策も含めた具体的な計画立案に対し、学会が貢献する責務があると考えている。



## ②記載事項への修正意見

### 1. 現状認識



#### 【指摘箇所】

p. 5～7 第1部第1章 2. 我が国の環境に関する現状

#### 【指摘内容】

- <環境の状況> (p. 5-6)として、**環境基準とその達成状況に関する言及が全くない**。環境基本法に基づいて定めた目標である環境基準を現状把握の物差しにしないのは、環境基本計画においては不適切と考える。
- <環境に関する取組状況> (p. 6-7)においても同様である。**継続的な取組の成果として維持されている良好な環境についても言及すべき**であり、引き続き取り組むべきこととして明示すべきと考える。

## ② 記載事項への修正意見

### 2. パートナーシップ

#### 【指摘箇所】

p. 14 第2部第1章 2. パートナーシップの充実・強化

#### 【指摘内容】

- 本節の第二段落には、パートナーシップ充実・強化が求められる取組の例が挙げられている。しかしこれらの**主体として学協会が抜けている**。
- 例えば、最初の例の「環境教育」や最後の例の「リスクコミュニケーション」において専門家の役割は大きいはずであり、学協会も明示するべきと考える。
- なお本学会では、市民セミナーを毎年開催（スライドの最後に過去5年のテーマのリスト）し、さらに市民や小中高校生向けの表彰事業（水環境文化賞）を行っており、パートナーシップの充実・強化に貢献していると考えている。



## ② 記載事項への修正意見

### 3. 重点戦略

#### 【指摘箇所】

p. 15 第2部第1章 3. 重点戦略(1) 持続可能な経済社会の構築

#### 【指摘内容】

- 最後から2番目の段落（「さらに、環境負荷の増大は…」）で環境負荷管理・低減が述べられているが、**具体的な環境の場の記述が欠けている**。

SDGsのGoal12（持続可能な生産・消費）のTarget12.4にも '*significantly reduce **their release to air, water and soil** in order to minimize their adverse impacts on human health and the environment*'（ここでの*their*は*chemicals and all wastes*を意味する）と書かれており、本項でも**大気・水・土壌といった環境の場の明示が必要**と考える。

## ②記載事項への修正意見

### 3. 重点戦略（つづき）

#### 【指摘箇所】

p. 15 第2部第1章 3. 重点戦略(1)持続可能な経済社会の構築

#### 【指摘内容】

- 最後の段落（例えば、環境配慮設計…）で環境負荷管理の例が挙げられているが、廃棄物管理や温室効果ガスに特化した内容になっている。

良質な資源は諸活動の環境負荷低減に寄与すること、また、良好な環境は観光資源としての価値も有することから、例えば「良質な水を確保するための水環境の保全と水循環の確保」「水再生利用技術の適正な導入」といった水資源や水環境に関連する事例も挙げられるべきと考える。

# 参考：本学会の活動から

世界最大規模の水関連分野の国際会議 **IWA World Water Congress & Exhibition** の来年秋の東京開催  
5000名以上の参加者を想定

SDGsにも多くのGoalで水が関わっていることから、様々なセッションで **future** をキーワードとした議論がなされる見込み

## Shaping Our Water Future World Water Congress & Exhibition 2018



16-21 SEPTEMBER 2018 • TOKYO • JAPAN

[www.worldwatercongress.org](http://www.worldwatercongress.org)





# 参考：本学会の活動から

## 【学会誌特集テーマ(過去2年)】

- 水道水質基準に関わる動向と今後の展望
- 改正瀬戸内海環境保全特別措置法—42年の歩みと新たな展開—
- 干潟生態系の修復と生態系サービスの評価
- 新たな水質環境基準の実際と基準達成に向けたアプローチ
- 湖沼の底泥を覗く
- 食料生産における新たな水利用
- 最新の質量分析技術による多物質分析
- 上下水道における防災・減災の取り組み
- 水処理におけるにおいと処理技術
- ここまで進化した下水処理における省エネルギー技術
- フューチャーデザイン：将来世代を見据えた持続可能な水利用・管理に向けて
- 有明海・八代海の環境研究に関する今後の展開

- 日本水環境学会における環境教育・環境意識啓発の取り組み
- 排水に潜在するエネルギーの回収や利活用へ向けた技術の動向

## 【市民セミナーテーマ(過去5年)】

- 水環境におけるマイクロプラスチックに関する最新の動向
- 温暖化、水とくらしはようになる？どうする？(Ⅲ)～生活目線での適応策～
- 放射性物質はどこへ行ったのか？-東日本大震災による原発事故のその後-
- 黄砂と共に飛来する越境化学物質-水環境と健康に対する影響を考える-
- 身近な水環境、池・沼・湖の保全を考える—ため池から琵琶湖まで—

# ご清聴ありがとうございました

公益社団法人 日本水環境学会

〒135-0006 東京都江東区常盤2-9-7 グリーンプラザ深川常盤201

Tel. (03) 3632-5351 Fax. (03) 3632-5352

事務局長 小川 ogawa@jswe.or.jp